学校番号	3025

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	(学)数学ⅠA演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	自主教材						
副教材等	ニューステージ数学ⅠAⅡBC　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では常に問題意識を持つようにし、「なぜ？」を考える活動をしてください。
・授業用のノートだけでなく、問題集用のノートも用意してください。
・授業ノートについては、ただ板書を写すだけではなく、先生の話や、疑問点、気になったことなどを随時書き記していくようにしましょう。
・間違えた箇所に矢印等を施し、再度横で解いてみる「くせ」をつけるようにしましょう。
・説明を聞き、あるいは例題等を読んで理解した後、先生の指示を待つのではなく、他の人に説明するつもりになって、練習問題を解いていって下さい。その際、ただ、答えを書くのではなく、詳しい解答を書くよう、心がけて下さい。
・相手にわかりやすく説明するため、根拠や解決の筋道などを明確にするようにしてください。
・わからない点があれば、必ず質問し、分からないままにしないようにしましょう。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析について理解させる。
【思考力、判断力、表現力等】
基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培う。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度

観点の趣旨	数学Ⅰ・Ａで学ぶ分野の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
１学期	復習	「数と式」 「集合と命題」 「図形の性質」	a: 絶対値の意味と記号表示を理解している。 b: 複雑な式についても，項を組み合わせる，降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで，因数分解をすることができる。 c: チェバの定理，メネラウスの定理に興味を示し,逆が成り立つことも含め積極的に考察しようとする。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 提出 ﾉｰﾄ 課題	提出 ﾉｰﾄ 課題
	復習	「場合の数と確率」 「データの分析」	a: 分散，標準偏差の定義とその意味を理解し，それらに関する公式を用いて，分散，標準偏差を求めることができる。 b: 複数のデータを，散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析し，問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 c: ①身近な事柄において，確率の考え方を活用して考察しようとする。 ②日常の事象における不確実な事柄について判断する際に，期待値を用いて比較し，考察しようとする。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 提出 ﾉｰﾄ 課題	提出 ﾉｰﾄ 課題

2学期	復習	「図形の計量」 「2 次関数」	a: 正弦定理・余弦定理を用いて,三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。 b: 三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。 c: ①2 次方程式がどんな場合でも解けるように，解の公式を得て，それを積極的に利用しようとする。 ②2 次関数のグラフとｘ軸の位置関係を調べ，その意味を探ろうとする。 ③身近な問題を２次不等式で解決しようとする。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 提出 ﾉｰﾄ 課題	提出 ﾉｰﾄ 課題
	復習・演習	「数学と人間の活動」 数学ＩＡの総復習	a: 自然数の素因数分解を求めることができる。 ・暗号技術に素因数分解の考えが活用されていることを理解している。 ・素因数分解を利用して最大公約数・最小公倍数を求める方法を理解している。 b: 決められた手順で複数枚のカードを操作する事象などを数学的に捉え，約数の個数の考えを用いて仕組みを考察することができる。 ・整数に関する問題を，1 次不定方程式に帰着させて考察することができる。 c: 10 の倍数以外についての判定法を調べようとする態度がある。 ・数学史に興味・関心をもち，素数と素因数分解について学ぼうとする態度がある。 ・「干支」という身近な用語について，最小公倍数との関連を見つけて考察しようとする。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 提出 ﾉｰﾄ 課題	提出 ﾉｰﾄ 課題
3学期	演習	共通テストタイプ対策問題演習	a: 様々な問題を解くことができる。 b: 明確な数学的根拠に基づき，解答を作成することができる。 c: 様々な問題に意欲的に取り組み，その数学的背景を考えようとする。	確認ﾃｽﾄ	提出 ﾉｰﾄ 課題	提出 ﾉｰﾄ 課題
	演習	記述タイプ対策問題演習	a: 様々な問題を解くことができる。 b: 明確な数学的根拠に基づき，解答を作成することができる。 c: 様々な問題に意欲的に取り組み，その数学的背景を考えようとする。	確認ﾃｽﾄ	提出 ﾉｰﾄ 課題	提出 ﾉｰﾄ 課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度